

こども園における自己評価

八尾市立東山本わかばこども園

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	今年度は、子どもと人とのかかわりに焦点を当て、子どもは人にどのような興味をもち、人とかかわる中で何を学んでいるのかを生活や遊びの場面から読み取り、発達段階に応じて、意図的に環境を構成しながら、様々な人と関わる場を設けた。
	・目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	教育保育計画に基づき月案・週案を立てて日々の保育実践を行っている。保育実践は毎日ダイアリーにエピソードと共に記し、評価改善を図っている。
	・毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・1日の流れ（ディリープログラム等）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	子どもの姿を肯定的に捉え、子どもの気づきや発想を大切に、やってみたと思ったことが実現できるように、環境を整えたり一緒に考えたり、見守ったりしながら、一人ひとりが充実した毎日の中で自己実現できるように援助している。
	・行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	今年度より、環境教育の一貫として、家庭から廃材・素材を集め、子どもたちが遊びに必要なものを活用できるように工夫してきた。保護者アンケートによる環境教育への評価も高い。
	・子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	月に1回実施している保育教諭を対象とした学習会では、学期ごとに、各学年で子どもと人との関わりについて、具体的な姿を共有しながら振り返り、人との関わりが豊かな学びにつながるよう、保育計画を立てている。
	・素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
	・子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4	

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	栽培活動、玉ねぎの皮むきなどの給食の手伝い、クッキング保育、食育指導、保健指導など、様々な活動を通して、食や自分の体に興味をもつ取り組みを実践している。 月に1回、火災・地震・防犯等の避難訓練を実施している。訓練の様子をお知らせボードや写真で知らせることで、保護者アンケートによる取り組みに対する評価が、昨年度より高くなった。
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員 の 資 質 向 上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	保育者のスキルアッププロジェクトとして、「栽培」「コミュニケーションツール」「SDGS」「体を動かす遊び」の4つのグループに分かれて、保育に活かせる教材づくり等に取り組み、保育力の向上を図った。 研修に参加した保育教諭が研修報告書を作成し、共有フォルダに保存することで、研修内容を共有できる取り組みを始めた。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	3	
職員 運 営 管 理 ・ について	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	園長・副園長・主幹保育教諭・保育教諭・看護師・栄養士・調理員等が連携し、園運営にあたっている。 会議計画を見直し、事前に事案を提起し、効率よく話し合いができるよう工夫した。また、報告・連絡・相談を大切にし、ICT機器なども活用しながら、情報共有を図っている。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	4	
守 秘 義 務 の 遵 守	・乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか	4	年度初めには、守秘義務・個人情報の適正管理について周知し、閲覧は職員室で行うなど、管理の徹底に努めている。
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目		内容	評価	備考欄	
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	地域の自然を活用した保育実践や、他の就学前施設や小中学校、高校との交流・施設活用などを行った。また、新たに、地域の高齢者クラブと5歳児との交流も実現し、年々、地域とのつながりが広がっている。	
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	4		
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互惠性のある交流になるように工夫しているか。	4		
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	3		地域の畑でサツマイモ栽培をした後のツルや中学校で栽培していたセンニチコウを大量に頂き、保育に活用した。こども園で自然環境を活用した保育実践をしていることを知った人から、自然物を頂く機会も増えている。
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4		
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	3		
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4		
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	毎月「わかばひろば」を開催し、地域の未就園児に遊びの場を提供している。水遊びや体を動かす遊び、行事に由来した遊びの回などが好評である。年齢交流では、在園児と一緒にクラスで遊んだりふれあい遊びをしたりし、利用者からは大変好評であった。園庭開放も月に2回実施している。	
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4		
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4		
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4		
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	4	ホームページにて、各学年の生活の様子や子どもが出会った自然について写真を中心に発信している。	
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立てているか	4		
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	4	第三者委員さんに来園していただく機会を設けている。参観後は保護者にアンケートをお願いし、意見を運営改善に生かすようにしている。	
		・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	4		
施設・設備	・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	月初日は安全点検の日とし、安全点検チェックリストに沿って園内外を点検している。毎月、危機管理会議にてヒヤリハット事例を共有し、園児が安全に生活できるよう環境の改善を行っている。掲示板は保護者との連絡ツールとしても欠かせないものであるため、日々活用している。		
	・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4			
	・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4			
	・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4			
経理出納	・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	適切に処理している。		

<成果>

子どもが豊かな経験や学びを得るためには環境構成が大切であり、保育の質の向上には保育者の環境を構成する力の向上が欠かせないということを、保育者一人ひとりが意識して保育に取り組んでいる。今年度の研究では、昨年度の「物(手作り玩具・既成の玩具・素材など)」と「自然(季節・自然物)」に加え、特に、「人」について、園内研・事例研・学習会等を通して学び、実践に生かしてきた。

研究の中では、子どもが「人にどのように興味をもち、人とかかわる中で何を学んでいるのか」、保育者は「人とのつながりをどのように生かし、どのような経験や学びの場をつくり出すか」という視点で保育実践を行ってきた。園生活においては、まず、保育者との信頼関係づくりが欠かせず、保育者が子どもにとって安心できる存在になることで、安心・安全な環境の中で子どもの興味関心が徐々に友だちへと広がっていった。まずは、近くにいる友だちが気になる存在となることから始まり、同じ生活グループの友だちやクラスの友だちへと、発達に応じて友だちの範囲が広がっていき、やがて、年上の友だちや年下の友だちといった異年齢の友だちへも目を向けるようになっていった。また、友だちに興味関心が向くようになると、そこに非言語や言語を介した関わりが生まれ、泣いている友だちを「ヨシヨシ」してみたり玩具を渡してみたり、「貸して」「いいよ」などのやり取りが生まれ、その中で、人とかかわり方や友だちと心地よく生活する方法を学んでいく。安心して人とかかわるようになると、「一緒に遊ぶと楽しい」と感じるようになり、その積み重ねから、目的の実現に向けて協同するようになる。友だちと一緒に遊ぶ中で、充実感を味わったり、刺激を受けたりしながら、自信をもって様々なことに取り組むようになることが分かった。

学期に1回、自由参観を実施し、生活や遊び、給食等の様子を保護者に見ていただけるようにした。また、参加して下さった保護者と子どもたちが触れ合って遊ぶ機会も設けた。普段の子どもの様子や遊びや生活の中でどのような経験をしているのか等、子どもの園での姿や友だちと関わりながら様々なことを学び合っている姿を保護者と共有できるよい機会となった。敬老の日のつどいや運動会、生活発表会なども、保護者に加え祖父母の参加もあり、子ども達もたくさんの方に温かく関わっていただく機会になった。また、今年度は、地域の高齢者クラブと5歳児との交流が実現し、昔遊びを一緒に楽しむことが出来た。

保育者一人ひとりの資質向上を目的に、スキルアッププロジェクトに取り組んだ。自分がスキルアップしたい分野について仲間と共に学び教材を作成するなどして、保育実践に活かした。保育者一人ひとりが主体性を発揮し、仲間と共に協同(対話)して学びを深める取り組みとなった。

<改善策>

今年度初めて実施したスキルアッププロジェクトでは、保育者同士で意見やアイデアを出し合ったりこれまで培ってきた経験を伝え合ったりすることができ、楽しく学べる良い機会となった。次年度も、自ら主体的に学び合えるこのスキルアッププロジェクトを継続していきたいと考えているが、どのようなテーマを扱うかについては、保育者から意見を募り、保育に活かせる学びの場となるようにしたい。また、プロジェクトメンバーが協同することがこの取り組みの良さであるが、集まる時間を捻出することが難しいという課題もあるので、「いつ」「どこで」「どのように」取り組んでいくのかについても、考えていきたい。

保育の様子を、ホームページや玄関ホールのモニターを活用しながら、写真を用いて保護者へ知らせてきた。「わかばひろば」を利用している人や入園を検討している人がホームページを見てくださっているという話を聞くと、保護者アンケートでは、園のホームページをあまり見たことがない保護者も一定数存在することが分かり、園だより等を通して、ホームページについて知らせ、保育の様子が多くくの保護者へ届くようにしていきたい。また、来年度は、各クラスが定期的に作成しているポートフォリオを、自由参観等の機会に、他学年の保護者も見られるように掲示するなどして、0歳から5歳までの発達や学びの連続性について、保護者の方にも啓発していきたい。